

◆ 踊りから伝統文化を考える ◆

無形文化遺産理解セミナー・ワークショップを開催します

堺市では、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が賛助するアジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）と連携し、無形文化遺産の保護の促進と活性化に取り組んでいます。

今回は、フィリピン民族舞踊をテーマに、無形文化遺産理解セミナー・ワークショップを開催します。

「フィリピン人は踊る人々」と呼ばれるほど、フィリピンにはユニークで多彩な大衆舞踊が各地に存在し、祭りや学校、祝いの席など、人々が集まる場所で踊られています。これらの踊りには、地域社会や民族の間で古くから慣習として受け継がれているものもあれば、新たに「伝統」として創り出されたものもあります。

同セミナーでは、フィリピンのマラナオ族の伝統舞踊が創造される過程を紹介し、フィリピン文化と民族の多様性、歴史と文化の重層性等について考えます。後半のワークショップでは、実際にフィリピン民族舞踊を体験します。

1 概要

第 45 回無形文化遺産理解セミナー・ワークショップ

テーマ：フィリピン民族舞踊にふれあおう

日 時：令和 6 年 12 月 1 日（日）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

講 師：並木 香奈美 氏（アジア太平洋無形文化遺産研究センター アソシエイトフェロー）

定 員：50 名（事前申込制・先着順）

内 容：

<セミナー（午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分）>

フィリピン民族舞踊を代表する踊り「シンキル（Singkil）」を生み出した、フィリピン南部ミンダナオ島のイスラム教系先住民族であるマラナオ族の伝統舞踊に注目します。この踊りが、キリスト教国であるフィリピンにおいて、どのようにしてフィリピンの象徴的な存在となり得たのか、その創作過程や現地コミュニティへの受容の過程を辿ります。また、現代の伝統舞踊の継承と実践において、イスラム教の動向がどのような影響を与えているのかについても考えます。

<ワークショップ（午後 2 時 40 分～午後 3 時 30 分）>

マラナオ族の踊りとはまったく異なるキリスト教系住民の踊りの 1 つである、フィリピン中部マスバテ島バンティギで生まれた「ラパイ・バンティギ（Lapay Bantigue）」を紹介し、実際に踊ります。この踊りは、「ラパイ」と呼ばれるカモメの動きを模倣したユニークな踊りで、漁師と魚を積んだ船が帰ってくるのを心待ちにする、カモメや島民の素朴な日常生活を描いています。老若男女が踊れる簡単な踊りでありながら、フィリピン人の独特な身体性を体感していただけます。



ラパイ・バンティギを踊る様子

2 申込方法

令和 6 年 11 月 1 日（金）午前 10 時から受付を開始します。

以下のいずれかの方法でお申し込みください。

電話	072-245-6201（堺市博物館 無形セミナー係）にて受付。
堺市電子申請システム	堺市ホームページ内「無形文化遺産関連事業 令和 6（2024）年度事業」 （ https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/unesco/renkei/mukeiR6.html ） より申請ページにアクセスし、必要事項を記入のうえ、お申し込みください。

3 場所

堺市博物館ホール（堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 大仙公園内）

交通：JR 阪和線「百舌鳥」駅下車 西へ約 500m

南海バス「堺市博物館前」停留所下車 南へ約 280m

4 参加費

無料

5 主催

堺市・アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）

問 い 合 わ せ 先	担 当 課：文化観光局 歴史遺産活用部 博物館 学芸課 電 話：072-245-6201 ファックス：072-245-6263
----------------------------	---